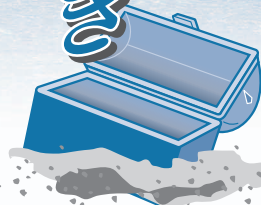


海辺の館のとうておき



～身近なところから

宝物を見つけよう



「チャレンジ！海辺の館のとうておき」では、海辺の三つの館（生命の海科学館、竹島水族館、蒲郡市博物館）から、それぞれ蒲郡にまつわる、とうておきの物語を皆さんにお届けしてまいりました。蒲郡の魅力を、自然や歴史から、あらためて発見していただけたでしょうか。最終回の今回は、各館から普段の生活の中で身近な宝物を発見するための、ちょっとしたヒントをご紹介します。

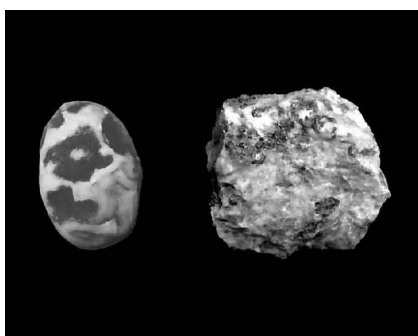
発見して調べて知ることのほうが、きつと何倍も楽しいはず。今回お届けするお話がヒントになって、皆さんの山歩きや、水辺やまちの散歩が、いっそう楽しくなれば幸いです。そして、皆さんご自身で、蒲郡のとうておきの宝物を発見してみてくださいね。

発見した宝物について調べてみようと思ったら、ぜひ、海辺の館に足をお運びください。皆さんの知る楽しみ、学ぶ楽しみのお手伝いをさせていただくことも、海辺の館の大切な役割の一つですから。

下を向いて歩こう

生命の海科学館
☎66・1717
学芸員 山中敦子

友人たちと、とある川原のバーベキュー場に出かけたときのことです。川原の石積みの上に、何気なくしゃがみこむと、小さな白い石の表面に、ハケで掃いたような一筋の薄紅色を見つけました。蒲郡では見慣れた石でしたが、ちょっと気になり、ポケットのルーペを取り出して観察してみました。すると、思った通り、小さなガーネットの粒が行儀よく列になって並んでいます。粒は小さいけれども形状は立派にサッカーボールのような姿をして、赤く輝いています。



先日海岸で拾ったシマメノウとガーネット

身近な生き物に

目を向けよう

竹島水族館
☎68・2059
学芸員 小林龍二

よほどニヤニヤしていたのでしようか、私のような目をとめた知人が、「なにそれ？」と興味深々で近づいて来ました。私がルーペと石を手渡して、ガーネットの粒であることを説明すると、いつの間にか周りの友人知人も加わって、宝探しが始まりました。その出来事は、楽しい思い出も加わって、私のちょっとした宝物になりました。空を見上げるのも楽しいものですが、たまには下を向いて、足元を観察してみるのも楽しいものです。公園の敷石や道端の石の中に、もしかしたら意外な宝物が発見できるかもしれません。

ザリガニを展示した時、興味深そうに見つめる子供たちを見て、少し驚きました。聞くと、ザリガニを触ったことがないという子供もいました。

ザリガニといえば、メダカと並んで身近な生き物の代表格であり、子供たちの格好の遊び相手でした。